

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和8年度 富山高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動	
重点課題	学習意欲と成長機会の質の向上	
現 状	本校では、「発展的未来に貢献する人間の育成」を目指し、進路実現および卒業後のさらなる飛躍の基盤となる資質・能力の育成につながる教育を展開している。学習活動においては、授業の充実を図るとともに、生徒の自主的な学習の確立が重要であり、「自学・自楽する18歳へ」の実現に向けて、学習意欲の向上と成長機会の質的充実を重点課題として取り組む。 「授業」に関しては、これまで10年以上にわたり「学び合い」やICT活用など、手法や授業展開の工夫と改善に重点を置き成果を上げてきた。今後はさらに、生徒自身がその授業に「受け手」ではなく「学びの創造者」としての意識をもって臨み、その主体性をいかに引き出すかという視点から授業改善を進め、資質・能力の一層の伸長を図る。 学習意欲と成長機会の質を向上させるため、「富山高校で育む10の力」(以下、「10の力」という。)のうち、特に「教養(既存の知識を組み合わせ新しい知見を得て、未来を予測する)」および「生活マネジメント(目標を見据えて自己の行動、生活マネジメントをする)」の育成を重視し、教育活動を展開する必要がある。従来実施している生徒面談等の取組を基盤としつつ、最終的に生徒が自ら考えて行動ができるよう、指導の在り方をより一層工夫・改善していく。	
達成目標	1 「授業」について:主体性を育む授業の実施と、授業を活かす生徒の意識の確立 ① 生徒による授業参加の自己評価 「学び合い」「教え合い」「振り返り」等の活動を、自らの学びの場として効果的に活用できたと回答する生徒の割合を90%以上とする。 ② 授業に関わる事前・事後課題への取組状況 授業の効果的な受講に資する事前・事後課題に、適切に取り組んでいると回答する生徒の割合を90%以上とする。 なお、①②いずれの項目についても、9月および1月に実施する学習生活実態調査において生徒アンケートを実施し、その結果を基に検証を行う。あわせて、3年後には各項目において95%以上の達成を目指す。	2 学習意欲と成長機会の質の向上:「10の力」のルーブリックの活用 ① 教養(既存の知識を統合し新たな知見を創出するとともに、未来を見通す力) 生徒によるルーブリック評価(以下段階評価という。)において、4段階中3以上に到達する生徒の割合を65%以上とする。 ② 生活マネジメント(目標を見据え、自らの行動および生活を主体的に調整する力) 段階評価において、4段階中3以上に到達する生徒の割合を60%以上とする。
方 策	1 教師の授業力の向上を図るとともに、生徒間および生徒・教師間における対話的な学びの一層の促進を図る。 2 担任を中心とした個別面談を年間7回以上実施し、特に、学習に困難を抱える生徒に対しては、生徒に寄り添いながら、学習意欲の向上が図られるよう、きめ細かな対話的な指導を行う。 3 進路学習係、担任および教科担当者が連携し、生徒が家庭学習に主体的に取り組むことができるよう、課題の質・量を適切に設定・調整する。その際、授業と家庭学習課題との有機的な関連性を高めるとともに、実態に即した個別最適化の実現を図る。 4 働き方改革を推進するとともに、教務規程および成績評価業務の見直しを通して、教員自身が「自学・自楽」の姿勢をもって知的好奇心や専門性を高めるための時間と環境の創出を図る。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和8年度 富山高等学校アクションプラン-2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	基本的生活習慣の改善	良好な対人関係の構築
現 状	1 生徒手帳の改訂により服装および頭髪については「清潔端正」のみを示しており、従来行っていた画一的な指導をなくしたが、服装・頭髪に乱れのある生徒も若干名いる。 2 『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立を目指しているが、スマートフォン等の長時間使用により、学習や睡眠に支障を来している生徒も見受けられる。 3 自転車通学生が多い中、ヘルメットの着用は徐々に定着しつつあるものの、イヤホン装着運転をしている生徒も見られるため、交通安全意識の一層の向上に向けた指導が必要である。	1 低年次においては、友人とのコミュニケーションの在り方に不安を抱き、悩み始める生徒も見受けられる。対話においては価値観の近い友人同士では議論が成立する一方で、異なる価値観をもつ他者との調整や相互理解にまでは至っていない状況が見られる。 2 中学校との学習習慣の違いに戸惑い、不適応感を抱くことで学校生活になじめず、将来の目標を見据えた自己の行動や生活のマネジメントが難しい生徒も一定数存在する。
達成目標	1 服装および頭髪に関する規範について主体的な判断力を育成するため、生徒会と教職員との対話の機会を、年間2回以上計画的に設ける。 2 スマートフォンの使用時間(学習活動および連絡利用を除く)の適正化を図るとともに、自己の行動や生活を自律的にマネジメントする力を養う。また、SNSへの個人情報等の軽率な投稿や著作権法違反、他者への誹謗中傷の防止に努める。 3 交通ルールおよび交通マナーの遵守を徹底するため、とりわけ自転車の安全運転について重点的に指導する。併せて、ヘルメット着用率の向上に向けた指導を推進する。	「10の力」のうちの「対話」、「協働」、「主体性」の段階評価の向上を図る。 ①異なる価値観を有する他者と建設的な対話を行うことができる。 ②他者と協議・協働し、より高度で複雑な課題の解決に取り組むことができる。 ③目標を明確に見据え、自己の行動および生活を主体的にマネジメントすることができる。
方 策	1 年2回の生徒会と教員との対話や担任による面談を通じて、生徒が「清潔端正な服装・頭髪」について主体的に判断できるよう促す。 2 スマートフォンは学習活動および生徒間の連絡に不可欠な存在となりつつあることを踏まえ、生徒対象の講演会を実施するとともに、教員と保護者が連携して生徒の実態把握に努め、適切な指導を行う。 3 年間6回の校門指導や電停における校外指導など、さまざまな機会を通じて交通安全意識の啓発に努める。	1 エンカウンターやピア・サポート等の取組を通じて、生徒が主体となって相互に助け合うクラスや集団づくりを支援する。 2 対話を重視したホームルームの実践例を立案する。 3 ケース会議や教員研修を開催する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)